

研究会「長期予報と大気大循環」のご案内

「長期予報研究連絡会」では下記の予定で研究会「長期予報と大気大循環」を開催します。

今年のテーマは「ENSOとその影響 ～我々はどこまで理解し、予測できているのか～」です。ENSOとは、エルニーニョ・南方振動のことで、これらの現象を大気と海洋の一連の変動として見るときに使われる言葉です。2014年1月と2月の強い西風バーストにより、太平洋赤道域の表層では振幅の大きな暖水ケルビン波が東進し、夏以降の本格的なエルニーニョ現象の発生が予測されました。しかし、その後、期待された大気と海洋の正の相互作用がなかなか働かず、その間に暖水が縮小し、現在のところ発生に至っていません(2014年8月現在)。エルニーニョ現象については、現在もなお新しい発見や疑問が生じており、今後の研究や知見の蓄積、予測技術の改良が期待されています。

本研究会では、今年のENSOの実況と予測について振り返るとともに、ENSOのメカニズム、十年規模変動や地球温暖化との関係、予測技術や海洋観測の現状と展望について議論することを目的としています。それ以外のENSOに関連する幅広い話題提供を

してくださる方もお待ちしております。

講演の申し込み締め切りは2014年10月31日(金)です。講演を希望される方は、下記連絡先まで電子メールで簡単な要旨(テキスト数行程度以上)をお送りください。1講演あたりの講演時間は20分程度を予定しています。また、発表された方には、研究会後に当会のホームページに掲載する要旨(A4, 4ページ程度)を作成していただきます。

なお、講演のプログラムは2014年11月14日(金)までに当会のホームページに掲載する予定です(<http://www.metsoc.or.jp/LINK/LongForc/index.html>)。

記

日時：2014年12月3日(水) 14時00分～17時30分

場所：気象庁3号庁舎2階 3023会議室

テーマ：ENSOとその影響

～我々はどこまで理解し、予測できているのか～

連絡先：伊藤 明, 萱場互起(気象庁気候情報課)
extreme@met.kishou.go.jp